

# ペットライフ

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp

獣医の

カルテ



61



かすやあいけん  
びょういん院長  
(富山市)

粕谷 圭治

重症熱性血小板減少症候群（S

FTS）は、2011年にヒトへの感染が確認された新しいウイルス性感染症です。発熱、消化器症状、白血球減少、血小板減少などの症状が現れ、致死率の高い（約30%）疾患です。現在、日本以外に中国、韓国、台湾、ベトナムで確認されています。

SFTSウイルスは、シカやイノシシなどの野生動物、ニワトリやウシ、ブタなどの産業動物、イヌ、ネコなどの伴侶動物に感染します。イヌ、ネコの感染は17年ごろから確認され、致死率はネコで60〜70%、イヌで約30%です。初期症状はヒトに酷似しており、重

## マダニの感染症



症化すると呼吸循環不全、播種性血管内凝固症候群、多臓器不全に至ります。感染は、自然界の中ではマダニと野生動物の間で起ります。マダニは一生に3回吸血するので、その際にヒトも動物もマダニに刺されることで感染すると考えられ

## 高い致死率 ヒトも注意

ています。中国や韓国ではSFTS患者の血液や体液に直接触れることで家族や医療従事者が感染した事例が報告されています。日本では発症したイヌ、ネコに接触した飼い主や獣医療従事者の感染も報告されています。特にネコからの感染は、かみ傷や濃厚接触から

れた治療法はなく、ワクチンも未開発のため、徹底した感染対策が最も大切です。野外の活動ではマダニに刺されないよう肌の露出を避け、ディートやイカリジンなどの忌避剤を使用してください。伴侶動物には速効性ある駆虫薬で駆除が可能です。SFTSを疑う動

起ります。発症したネコの唾液やふん便、尿中からはウイルスが排出されており、全ての体液に注意が必要です。診断方法は、病原体の検出、病原体の遺伝子を検出するPCR検査などがあります。国立感染症研究所や全国の地方衛生研究所で検査できます。治療は対症療法が主体で承認さ

▲ 犬が好む味の付いた駆虫薬を欲しがるロットワイラー犬のアイヌちゃん

物にはむやみに接触しないようにしましょう。富山県ではSFTS患者と患者の発生は報告されていませんが、石川県と福井県では2例ずつ患者の報告があります。マダニに刺された後、2週間以内に発熱などの症状が出た場合は、速やかに医療機関を受診してください。またSFTSが疑われる伴侶動物を飼育している場合も、同じく獣医療機関に相談してください。